

まちひとしごと

Vol. 35

写真家

アーロン・ジャミエソン さん

多くの人に伝わるように 町への愛情を作品に込めて



写

真家として撮影や執筆活動を行うオーストラリア出身

のアーロン・ジャミエソンさんは、年間を通して暖かい日が多く雪が降らないブリスベンという町で、サーフィンなどを楽しみながら育った。さまざまな土地で多くの人々や美しい景色に出会い、それらをカメラに収めることができると今の仕事は、最高だと話す。

子どもの頃は、父親が大切にしていたフィルムカメラをこっそり持ち出して遊んでいたそう。

「素敵な写真が撮れた時の喜びは、幼い頃の記憶の中にもしっかりと残っています」

成長とともに、カメラへの興味を強くしていったアーロンさんは、大学で写真撮影や映像に関わることを本格的に学び、オーストラリア国内で写真家としての活動を始めた。

そして、2006年の冬、初めて倶知安を訪れた。

「きっかけは、すでに倶知安で観光に関わる仕事をしていたオーストラリア人の友人から『日本におもしろい町があるから来てみないか』と誘われたことでした。初めて倶知安に来て、目の前に広がる一面の雪景色を見た時の感動は、これからも忘れることはないでしょう」

北海道・倶知安に「一瞬で恋に落ちた」と言うアーロンさん。もともと一冬だけの滞在の予定だったが、この町での暮らしはすでに10年以上となり、時間の経過とともにこの町のことを知っていく中で、より好きになっていったという。

今年に入り、10月に開催されるG20観光大臣会合に向けた倶知安のPR動画を制作。その作品には、彼自身が惚れ込んだ雪景色はもちろん、町の歴史や風土の他、ここで暮らす人々の生き生きとした表

情が映し出されることにより、リゾートとしてだけではない、町の魅力が表現されている。

『海外からのお客さまを歓迎する気持ちと未来への希望』をテーマに制作したその動画は、G20観光大臣会合の開催を前に、町ホームページなどで公開すると、町民や倶知安のファンから好評で、大きな反響を呼んでいる。

「もともとある美しい素材のイメージを崩すことなく表現できるのか、というプレッシャーはありましたが、この動画の制作をきっかけに、より多くの人と関わりながら、町への知識と興味を深められたことは、とても楽しい経験でした」

その動画は、私たち住民にとって『倶知安で暮らしていること』を誇りに思えるものとなった。そして、作品に込めた思いをこう語っている。

「5分間の映像に、町の魅力を詰め込みました。これを目にした人が、羊蹄山やスキーだけではなく、四季の素晴らしさを知り、さらにはこの町で暮らす人々の笑顔に会いたいと思うきっかけになれば嬉しいです」

※まちひとしごとは不定期連載です